

浦島伝説

令和6年7月19日

第14号



パリ・オリンピックは史上初がいっぱい

1924年にパリで第8回オリンピックが行われてから百年後の今年、再びパリでオリンピックが開催されます。百年前のパリ大会からマイクが使用されるようになり、大観衆の中でも選手やスタッフに連絡や指示が届くようになりました。また、この大会から選手村が設置されたそうです。

日本はオリンピックへの参加が3回目でした。陸上、水泳、テニスなど19選手が出場し、唯一となる銅メダルをレスリングの内藤克俊選手が獲得しました。

内藤選手は広島県出身。幼少期に両親を亡くし、小学4年で姉夫婦が住む台湾に渡り、柔道を習います。学校卒業後、単身アメリカに渡ります。当時のアメリカは排日運動が盛んでしたが、渡米して2年後、ペンシルバニア州立大学へ編入を果たします。排日が盛んな土地でしたが、熱心な姿勢に打たれた大学側が認めたものです。レスリング部に入ると、瞬く間に活躍してキャプテンに就任しました。

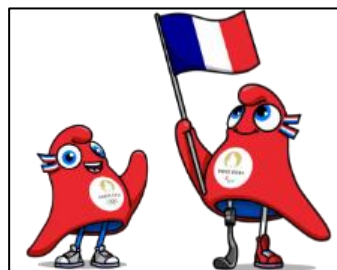
当時の米国は、排日移民法案が審議されていました。親日派でそれに対抗する法案を作っていたペンシルベニア州選出の上院議員は、日本の駐米大使に信書を送ります。「カツトシ・ナイトーという日本人留学生は、東部諸州で知らぬ者がいないほど素晴らしい人物である。彼はレスリングのキャプテンとしても立派に貢献した。彼をオリンピック日本代表として参加させることは、東部諸州のアメリカ人に好意をもって歓迎されるに違いない。」

大使は驚き、感謝して本国に報告しました。さっそく、渡航費を日本政府が負担する形で、パリ五輪派遣が決定。当時29歳だった内藤選手はアメリカ選手団とともに船でフランスへ向かうなか、船中での練習中に左手の人差し指を負傷してしまいます。しかし、怪我をおしてフリースタイル・フェザー級に出場し、鬼のような気迫で銅メダルを勝ち取ったそうです。



日本唯一のメダリスト内藤選手

日本時間の7月27日(土)午前2時30分に開会式があります。オリンピック夏季大会史上初めて、スタジアムの外で開会式が行われます。パリの中心部を流れるセヌ川でボートに各国の代表選手団とパフォーマーが乗船し、水上アスリートパレードが行われます。画期的な取り組みは他にも、観客が無料で開会式を見ることができるとです。河岸の上流側へはチケットなしでアクセスできるそうです。



パリ2024 マスコット
オリンピック・フリージュ

公式スローガンは「Games Wide Open : 広く開かれた大会」

開会式以外も広く開かれる大会となります。今大会の参加選手数は、五輪史上初めて男女同数です。女子選手たちが五輪に初めて出場したのは1900年に開かれた第2回パリ五輪。当時、全体参加選手約千人のうち、女子選手は22人だけでした。それから124年ぶりに同じ場所で男女の出場選手が同数になります。IOCは男女が一つのチームを組んで出場する混合種目を増やし、女子選手の割合を高めました。

これまでは男子マラソンが閉会日に開かれ、大会フィナーレを飾っていましたが、パリ五輪では女子マラソンが閉会式の日にかかれます。また、「禁男」だった水泳のアーティスティック・スイミングには男子選手が初めて出場。パリ五輪はまた、歴代最高水準のエコ大会を目標にし、選手村にエアコンを設置しないそうです。

歴代のオリンピックは多くのドラマが生まれています。今大会はどんなドラマが生まれ、どんな感動があるか。